

だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり

1 スポーツ参加の推進（体を動かす）

1 県民参加型スポーツの推進

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6(前)>	【担当課】
(1) 総合型地域スポーツクラブの連携強化	総合型地域スポーツクラブ間の連携強化	スポーツ支援センターの運営	支援センター運営のため会計年度任用職員を雇用し、総合型地域スポーツクラブの育成・充実にを図る	連絡協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	総合型地域スポーツクラブの会員数（人）	14,461	14,419	調査中	20,000	スポーツ振興課
		奈良県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営	連絡協議会に負担金を拠出するとともに、事務局を運営加盟クラブへの各種支援、交流大会の実施、講習会の開催などによりクラブの育成・充実にを図る 【参考資料2-1】	総合型のうち、連絡協議会に加盟するクラブに対して、充実した支援メニューを提供し、質的向上につながっている。	法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合（%）	41.5	43.1	41.2	70.0	
(2) 総合型地域スポーツクラブの活動支援	総合型地域スポーツクラブの育成・活動充実	クラブアドバイザーによる巡回指導	クラブアドバイザーによるクラブや市町村の巡回訪問、指導	クラブの課題や要望を把握し、市町村の総合型への理解促進などによりクラブの支援や、新たなクラブ設立につながっている。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ62回 市町村0回	クラブ27回 市町村0回	クラブ46回 市町村3回	-	スポーツ振興課
		アシスタントマネージャー養成講習会の開催	クラブの安定的運営に資するマネジメント人材育成のため、講習会を開催 【参考資料2-1】	クラブの安定的な運営のために必要な人材の育成につながっている。	講習会受講者数 資格取得者数	-	受講者10名 資格取得10名	-	-	
		スポーツ支援センターによる総合型地域スポーツクラブの育成支援	スポーツ振興課が支援センター業務を担い、クラブアドバイザーを配置	連絡協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ62回 市町村5回	クラブ27回 市町村0回	クラブ46回 市町村3回	-	
		持続可能な活動に向けた新たな仕組みづくり	高齢化などにより自立活動が困難なクラブの増加が見込まれる中、共同運営など持続可能な新たな仕組みづくりを検討	連絡協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ62回 市町村5回	クラブ27回 市町村0回	クラブ46回 市町村3回	-	
(3) 総合型地域スポーツクラブによる学校部活動の受け皿づくり	モデル校等での実証実験	総合型地域スポーツクラブとの連携事業の実施	総合型と学校との連携のため、モデル地域において学校とクラブの交流事業やクラブの指導者を学校部活動に派遣	部活動の地域移行や学校とクラブの交流事業（体験教室等）について、県の担当者が各市町村の担当者と面談し、情報共有や課題について検討・アドバイス等を行った。	指導者派遣回数（回）	-	83	110 (見込み)	-	スポーツ振興課 体育健康課
	総合型地域スポーツクラブを中心とした地域での受け皿づくり									
(4) 県民が参加しスポーツを楽しむイベントの開催	季節に応じた魅力的なスポーツイベント等の企画・開催	ならスポーツフェスティバルの開催	ならスポーツフェスティバル（旧 県民体育大会）を開催	県民にスポーツの楽しさ・喜びを体験してもらえら場となっている。	奈良スポーツフェスティバル参加者数（人）	6,839	8,389	8,389 (見込み)	-	スポーツ振興課
		健康トレーニング教室等の開催	健康保持増進と体力づくりを目的に、様々な年齢層の人々が、気軽に参加できるスポーツ教室を開催	体力づくりだけでなくスポーツ教室を通じて参加者の交流にもつながっている。	スポーツ教室参加者数（人）	4,813	4,642	5,000 (見込み)	-	
(5) 奈良マラソンの開催	シンボルイベントとしてさらに進化	奈良マラソンの開催	満足度の高いイベントとして進化させるとともに、宿泊・飲食、周辺観光、地域との交流に結びつけて地域活性化も図る 【参考資料2-2,2-3】	例年、12月第1週の土日にフルマラソン、10km、3kmで開催。県内外から17,000人以上が参加。県内における最大規模のスポーツイベントであり、県民をはじめとする参加者の健康増進、オフシーズンの観光振興に資するとともに、県全体の活性化にも寄与。	奈良マラソン参加者数（人）	11,034	14,992	16,286	-	スポーツ振興課

2
子どものスポーツの推進

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6実績>	【担当課】
(1) 幼児期のスポーツ（遊び・運動）の推進	子どもが楽しく体を動かすことができる環境づくり	幼児期の運動や遊びに関する研修の実施	幼児期運動指針等に基づく幼稚園や保育所、こども園等での外遊びや体遊びの推進	指導者研修会を実施するなどし、幼児期に適した運動の理解や運動習慣の定着につなげている。	-	-	-	-	-	体育健康課 こども保育課
	地域で幼児が運動できる環境の整備	まほろば健康パークの機能強化の検討	すべての人が楽しく利用できる公園やこどもの主体的な遊びを通して子育て・子育て支援に資する公園となるよう機能強化を検討	まほろば健康パークインクルーシブ機能検討委員会を5回（R5:1回、R6:4回）開催し、R7.3月に基本計画を策定する予定。	-	-	-	-	-	公園企画課
	「奈良県幼児向け運動・スポーツプログラム」の普及	幼児向け運動・スポーツプログラムの策定・普及	総合型地域スポーツクラブと連携して幼児向け運動・スポーツプログラムを活用	就学前児童の健やかなはぐくみを推進するとともに総合型地域スポーツクラブの育成・充実に繋がった。	就学前児童在籍の総合型地域スポーツクラブの割合 60.9%以上（96）	30.8	34.3	調査中	60.0	スポーツ振興課
(2) 子どもの体力向上方策の推進	子どもの体力向上に向けた取組、体育指導の充実・発展、教員の指導力と資質向上	外遊び、みんなでチャレンジ！	県HP、小学生の支援サイトで各学校で子どもが休み時間にチャレンジできる遊びを紹介し、記録を登録・公表	様々な種目にチャレンジすることにより、運動習慣の定着につながっている。	チャレンジ記録のホームページ登録数	-	3,089	3,500 （見込み）	-	体育健康課
	地域でのスポーツ参加機会の充実	市町村対抗子ども駅伝大会	県内在住の小学校5・6年生男女が参加する市町村対抗子ども駅伝大会を開催	H17年度からスタート。全39市町村が参加し、一体となって開催するイベントとして定着。子どもたちの体力向上や、逞気感の養成などに寄与。のちにパラリンピック日本代表や、都道府県対抗駅伝選手として活躍する子どもたちも輩出している。	市町村対抗子ども駅伝大会参加者数（人）	275	278	3/8 実施予定	-	スポーツ振興課
	子どもとアスリートとのふれあいの機会の創出	トップアスリートとの交流イベントの開催 子どもたちをプロスポーツ試合等へ観戦招待	ウエスタン・リーグ公式観戦と出場選手（又は元プロ野球選手）による少年少女野球教室を開催 【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しみ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数（人）	314	178	474	-	スポーツ振興課
(3) 学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行	専門知識を有する地域の人材の活用	部活指導員配置促進事業	中学校に部活動指導員を配置する市町村を補助 県立学校に部活動指導員を配置	配置を希望する市町村への補助を通じて、専門的指導者不在や教員の働き方改革につながっている。	各市町村における運動部活動への指導員配置人数（人）	-	165	187 （見込み）	-	体育健康課
	多様な主体と連携した学校部活動及び新たな地域クラブ活動の体制づくり	地域スポーツクラブ活動体制整備事業	休日の運動部活動の地域スポーツクラブへの移行に関する実証事業	R6年度は、19市町で実証事業に取り組んでいる。人材確保や受益者負担に対する保護者理解を得るなどが課題として挙げられている。	地域移行実証事業に取り組む市町村数	3市町	11市町	19市町	-	
	地域移行に関する方針づくり	部活動改革検討委員会の開催 奈良県版「（仮称）部活動地域移行の手引き」の作成	関係各団体の代表者を委員とする検討委員会を設置。地域移行を含む学校部活動の任り方について検討を進めている。R6は2回開催（9月、2月）	-	-	-	-	-	-	
(4) 子どものスポーツ活動環境の充実	地域での様々なスポーツ団体活動の支援	後援、表彰によるスポーツ団体活動の支援	スポーツ団体事業の後援や表彰によりスポーツ団体活動を支援	地域スポーツ振興貢献者へのサポートにつながっている。	後援・表彰件数（件）	67	65	65 （見込み）	-	スポーツ振興課
	地域で子どもが家族や友だちと一緒に参加できるスポーツ教室・イベントの開催	市町村対抗子ども駅伝大会の開催【再掲】	県内在住の小学校5・6年生男女が参加する市町村対抗子ども駅伝大会を開催	H17年度からスタート。全39市町村が参加し、一体となって開催するイベントとして定着。子どもたちの体力向上や、逞気感の養成などに寄与している。	市町村対抗子ども駅伝大会参加者数（人）	275	278	3/8 実施予定	-	スポーツ振興課

3
生涯スポーツ
の推進

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6値>	【担当課】
01) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進	それぞれのライフスタイルに応じた多様なイベントの開催	身近にスポーツができる施設の情報発信	R6年度から、新たに奈良スーパーアプリによる施設予約を橿原公園で先行実施	8月予約分からアプリによる受付を開始し、徐々に定額。R7年度は明日香庭球場にも実装予定。今後も普及に取り組み。	奈良スーパーアプリによる予約件数(件)	-	-	-	-	- スポーツ振興課
		奈良マラソン大会の開催【再掲】	満足度の高いイベントとして進化させるとともに、宿泊・飲食、周辺観光、地域との交流に結びつけて地域活性化も図る 【参考資料2-2、2-3】	例年、12月第1週の土日にフルマラソン、10km、3kmで開催。県内外から17,000人以上が参加。県内における最大規模のスポーツイベントであり、県民をはじめとする参加者の健康増進、オフシーズンの観光振興に資するとともに、県全体の活性化にも寄与。	奈良マラソン参加者数(人)	11,034	14,993	16,286	-	
		橿原公園ナイトランの実施	一般ランナーからアスリートを目指す人まで、また、子どもから高齢者まで、誰もが運動・スポーツを楽しむことができる場づくりとして、橿原公園陸上競技場の夜間無料開放を実施 【参考資料2-5】	幅広い世代、立場の人々が利用し、現在では県民に定額している。R6年度より週4回(月・水・木・金)実施	ナイトラン参加者数(人)	18,782	19,952	22,000(見込み)	-	
01) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進	運動・スポーツに取り組むきっかけづくり	J世代の健康づくり事業	肥満や運動不足等の健康課題の多い世代(J世代)を対象に、事業所等と連携した健康支援及び健康情報発信	R6年度は、県内17事業所で健康づくり実践セミナーを実施予定。本事業を見直し、R7年度からは事業所における健康づくりの推進を行うため、モデル事業所への健康づくり取組支援及び、地域と職種健診のデータ分析を行う。	運動習慣者の割合(20~64歳)	男性:44.2% 女性:41.3%	男性:41.8% 女性:40.4%	調査中	男性:61.2% 女性:58.1%(R16)	- スポーツ振興課
		市町村健康づくり実践支援事業	誰でも気軽に日常生活の工夫で取り組める「おでかけ健康法」で身体活動を促進する。その拠点として、事業所等と連携した「健康ステーション」を設置する。健康ステーションの設置支援として、希望する事業所に対し、アドバイザー派遣の実施等を行う。また、希望市町村に対して活動量計を貸し出し、市町村事業による県民への「おでかけ健康法」の普及を推進する。	県内17事業所に民間が運営する健康ステーションを設置。運営スタッフの確保や、事業所との事前調整を行うことが課題。R6年度は「J世代の健康づくり事業」の、健康づくり実践セミナー参加者へ活動量計を貸し出している。また、業界団体の「健康サポートのための他職種連携研修会」において、業界業界を対象に「おでかけ健康法」や「健康ステーション」の設置協力について説明している。	①運動習慣者の割合(20~64歳) ②運動習慣者の割合(65歳以上) ③「おでかけ健康法」の普及に取り組む市町村・事業所数	①男性:44.2% 女性:41.3% ②男性:60.5% 女性:60.9% ③市町村:4 事業所:0	①男性:41.8% 女性:40.4% ②男性:57.5% 女性:57.2% ③市町村:6 事業所:1	①調査中 ②調査中 ③市町村:6 事業所:1	①男性:61.2% 女性:58.1% ②男性:66.1% 女性:77.4% ③市町村:39 事業所:増加 (R16)	
		スポーツ・運動の情報やコンテンツなどの発信・配信	公式YouTubeによる情報発信	奈良県内で開催するスポーツイベント等に関するPR動画やスポーツ振興事業を情報発信	SNS(Instagram・YouTube)をさらに活用し、情報発信力を強化する。	-	-	-	-	
02) 女性のスポーツ推進	子連れでも女性がスポーツを気軽に楽しめるために必要な設備や機能の充実、情報発信	橿原公園スポーツ教室	橿原公園シェイクアウトアリーナにおいて、ストレッチやエアロビクス等によるトレーニング教室、バドミントン、ソフトバレー、ソフットニス等の教室、5歳程度の子どもと親を対象とした親子体操教室を実施。(参加者のほとんどが女性)	気軽に楽しく体を動かす機会の提供に寄与している。今後、女性のニーズや意識に応じたスポーツ機会の拡大を図る。	スポーツ教室参加者数(人)	4,813	4,642	5,000(見込み)	-	- スポーツ振興課
03) 高齢者のスポーツ推進	高齢者が運動・スポーツに取り組む環境づくり	健康ステーション市町村連携協働事業	健康ステーションの設置に対する市町村補助	市町村主体で運営する健康ステーションを県内6市町村に設置しており、身体活動の促進につながっている。R5年度に開設した玉畷町と下市町へは補助金を交付している。(補助期間:開設年度から3年度間)	運動習慣者の割合(65歳以上)	男性:60.5% 女性:60.9%	男性:57.5% 女性:57.2%	調査中	男性:66.1% 女性:77.4%(R16)	- 健康推進課
		市町村健康づくり実践支援事業【再掲】	誰でも気軽に日常生活の工夫で取り組める「おでかけ健康法」で身体活動を促進する。その拠点として、事業所等と連携した「健康ステーション」を設置する。健康ステーションの設置支援として、希望する事業所に対し、アドバイザー派遣の実施等を行う。また、希望市町村に対して活動量計を貸し出し、市町村事業による県民への「おでかけ健康法」の普及を推進する。	県内17事業所に民間が運営する健康ステーションを設置。運営スタッフの確保や、事業所との事前調整を行うことが課題。R6年度は「J世代の健康づくり事業」の、健康づくり実践セミナー参加者へ活動量計を貸し出している。また、業界団体の「健康サポートのための他職種連携研修会」において、業界業界を対象に「おでかけ健康法」や「健康ステーション」の設置協力について説明している。	①運動習慣者の割合(20~64歳) ②運動習慣者の割合(65歳以上) ③「おでかけ健康法」の普及に取り組む市町村・事業所数	①男性44.2% 女性:41.3% ②男性60.5% 女性:60.9% ③市町村:4 事業所:0	①男性41.8% 女性:40.4% ②男性57.5% 女性:57.2% ③市町村:6 事業所:1	①調査中 ②調査中 ③市町村:6 事業所:1	①男性:61.2% 女性:58.1% ②男性:66.1% 女性:77.4% ③市町村:39 事業所:増加 (R16)	
		高齢者のスポーツ文化交流大会(シニア元氣フェスタ)の開催	高齢者のスポーツ活動等の「励み」や「発表の場」となる大会を開催	高齢者のスポーツ活動等の「励み」や「発表の場」につながる大会を開催する事により、高齢者のスポーツ活動等の推進強化につながっている。	ならシニア元氣フェスタ参加者数(人)	2,036	2,200	1,939	-	
04) 運動・スポーツのきっかけづくり	運動の機会が少ない人や運動に興味のない人へのきっかけづくり	身近な運動普及啓発事業	山間部など地理的条件などで運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発 【参考資料2-6】	管轄体を動かす機会の少ない山間部の住民を対象に、元オリンピック日本代表選手を招いて運動教室を実施。運動することの大切さ、楽しさの再認識につながった。これを機に市町村で身近な運動を推進する取り組みを実施してもらえるように働きかけていく。	参加者数(人)	-	145名	163名	-	- スポーツ振興課
		運動のきっかけ創出事業	運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発。アシックスとの連携事業において、集客施設で体力測定会を実施。 【参考資料2-7】	無関心層への働きかけにより、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりにつながった。	体力測定会参加者数(人)	-	909名	676名	-	- スポーツ振興課
		ふらっと&ちよこっと運動推進事業	運動に興味のない人が、ふらっと立ち寄った場所でも、ちよこっと運動ができる環境と軽スポーツ体験等ができる機会を創出するため、県内施設で健康・スポーツ機器を常設し、運動に興味のない人に対するアプローチにつなげる。	R5年度から実施。今後も無関心層へのきっかけづくりにつなげる。	機器設置施設数(箇所)	-	2	2	-	- スポーツ振興課

4
障害者スポーツの推進

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6増設>	【担当課】
(1) スポーツを通じた共生社会の実現	障害の有無に関わらず参加できるイベント開催	奈良県障害者スポーツ大会の開催	障害者が気軽に参加できる軽スポーツイベントを開催	障害者軽スポーツ大会を実施。障害者が気軽に参加できる環境づくりに寄与。	参加者数（人）	37	73	19	-	障害福祉課
		ポッチャや車いすバスケットボール体験会等の開催	企業版ふるさと納税による寄付金を活用し、ポッチャや車いすバスケットボール体験会をプロバスケットチームであるバンビシャス奈良のホームゲームと連携して開催	バンビシャス奈良のホームゲームと連携して実施。企業と一体となり地域スポーツの推進にも寄与。	参加者数（人）	25	31	28	-	スポーツ振興課
(2) スポーツに取り組む機会の充実	障害者の社会参加の促進及びスポーツに取り組む機会の充実	健康教室、障害者スポーツ教室の開催	奈良県心身障害者福祉センターで、スポーツ・文化創造に関わる教室を開催	スポーツ等を通じて、障害者の社会参加の促進を図るとともに障害者スポーツの普及振興に寄与。	参加者数（人）	49	63	63(増設あり)	-	障害福祉課
		奈良県障害者スポーツ大会の開催	全国障害者スポーツ大会への出場選手の選考にも繋がる大会を開催			475	542	536(増設あり)	-	
(3) 障害のある人がスポーツを楽しむことができる環境づくり	総合型地域スポーツクラブ等での障害者スポーツの取組支援	障害者スポーツの支援	身近な地域でスポーツを楽しむことができるよう総合型地域スポーツクラブによる障害者スポーツの取組みを支援	クラブの課題や要望を把握し助言、市町村の総合型への理解促進などによりクラブの支援や、新たなクラブ設立につながっている。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ6回 市町村5回	クラブ7回 市町村0回	クラブ46回 市町村3回	-	スポーツ振興課
		奈良県心身障害者福祉センター運営	障がい者を対象にスポーツ教室や文化教室を定期開催	スポーツ等を通じて、障害者の社会参加の促進を図るとともに障害者スポーツの普及振興に寄与。	スポーツ教室参加者数（人）	49	63	63(増設あり)	-	障害福祉課
(4) 障害者スポーツを支える人材の育成	スポーツ指導者の養成、指導力の向上、派遣	障害者スポーツ指導員養成講習会の開催	公認障がい者スポーツ指導員の「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得に向けての講習会を開催	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	参加者数（人）	23	12	6	-	障害福祉課
		障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の運営	上尾修了者に対して、障害者スポーツボランティア人材バンクに登録依頼 市町村等へスポーツボランティアを派遣	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	登録者数（人）	224	237	243(増設あり)	-	障害福祉課

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6増減>	【担当課】
------	---------	-------	--------	------------	--------	------	------	------	--------	-------

II スポーツの推進を支える人材の育成（人を育てる）

1
人材の育成
（コーディネーター・マネジメント・指導者）

(1) スポーツ指導者、マネジメント人材の確保、養成	人材の確保、養成、活用に向けた取組の推進	スポーツ人材育成勉強会の開催 国スポ先導員の視察・ヒアリング	国スポ大会先導員等におけるスポーツ人材育成実施状況等を視察。スポーツ人材育成勉強会を開催し、奈良県のスポーツシーンの人材の充実を図るための方針を検討。	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を構築。R6年度より奈良県スポーツイノベーション推進本部を設置。	-	-	-	-	推進本部立ち上げ前のため、事業廃止	-	スポーツ振興課
		スポーツ指導者の資質向上	スポーツ推進委員協議会の運営	スポーツ推進委員協議会による指導者向け研修等の実施	スポーツ推進委員の資質向上につながっている。	初任者研修会参加者数（人）	33	38	38	40	スポーツ振興課
	障害者スポーツ指導者の養成、指導力の向上、派遣【再掲】	障害者スポーツ指導者の養成	障害者スポーツ指導員養成講習会の開催【再掲】	公認障がい者スポーツ指導員の「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得に向けての講習会を開催	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	参加者数（人）	23	12	6	-	障害福祉課
		障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の運営【再掲】	上記修了者に対して、障害者スポーツボランティア人材バンクに登録依頼 市町村へスポーツボランティアの派遣等を実施	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	登録者数（人）	224	237	243(増減あり)	-	障害福祉課	

2
選手の育成

(1) 競技団体を通じた競技力の向上	各競技団体等の戦略的な強化活動を支援	競技団体等の競技力向上への支援	各競技団体等に対して育成支援・指導を行う県スポーツ協会に対する事業補助	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を新たに構築。R6年度より奈良県スポーツイノベーション推進本部を設置し、支援を強化。	天皇杯順位	25位	31位	36位	-	スポーツ振興課	
		ジュニアタレントの発掘・育成、強化支援	未来のアスリート発掘育成事業	2031年に奈良県で開催される国スポ大会や将来国際大会で活躍が期待できる、優れた素質を有するジュニアアスリートの発掘・育成 【参考資料2-8,2-9,2-10,2-11】	R5年度よりR13年開催の国体や世界大会等で活躍が期待できる未来のトップアスリートを発掘するため、スポーツ能力測定会を開催。測定会の結果から選抜した優れたスポーツ能力をもつジュニアに育成プログラムを実施。	育成プログラム参加者数（人）	-	69名	89名	-	スポーツ振興課
			国スポアスリートパスの交付	(株)Fast Fitness Japanとの包括連携協定に基づき、競技団体から推薦を受けた国スポ参加を目指す20名に対し、県内のエニタイムフィットネス利用が無料となるパスを交付し、アスリートを支援する。	R6.7月に締結した(株)Fast Fitness Japanとの包括連携協定に基づき、今年度開始した取組の一つ。利用者ニーズを調査し、次年度以降の取組に反映予定。	アスリートパス交付対象者数（人）	-	-	20	-	スポーツ振興課
			国スポ、全スポへの奈良県選手団の派遣	国スポ大会への奈良県選手団派遣	奈良県選手団を派遣する県スポーツ協会に対する事業補助	奈良県選手団の派遣を実施。	選手団参加人数（人）	354	386	338	-
(2) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けたアスリートの育成	スポーツ医・科学等を活用したサポート体制の整備	指導者育成強化事業（県スポーツ協会補助）	県スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を構築。R6年度より奈良県スポーツイノベーション推進本部を設置。	スポーツ指導者登録数（人）	2,608	2,987	3,318	4,000	スポーツ振興課	
		成績優秀選手の表彰	奈良県スポーツ特別功労賞	オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会等において第三位までに入賞した者並びに同大会等において活躍するなどこれに準ずる業績があると認められる者（県民栄誉賞等特例の賞を受賞した者は除く）を知事が表彰	県民のスポーツへの意欲の喚起につながっている。 R6年度は4名のアスリートに奈良県スポーツ特別功労賞を授与。	表彰件数（件）	-	-	4	-	スポーツ振興課
(3) 競技スポーツの成績優秀者への表彰	競技性が高い障害者スポーツの選手発掘や練習会	世界規模（オリ・パラ）で活躍した者を知事が表彰	世界規模（オリ・パラ）で活躍した者を知事が表彰		-	-	-	-	-	広報広聴課	
		国際大会での活躍	国際大会での活躍		-	-	-	-	-	-	広報広聴課
		国際大会での活躍	国際大会での活躍		-	-	-	-	-	-	広報広聴課
		国際大会での活躍	国際大会での活躍		-	-	-	-	-	-	広報広聴課
(4) バラスポーツ選手の発掘・育成	競技性が高い障害者スポーツの選手発掘や練習会	パラリンピックタレント発掘事業（水泳）	関西広域連合事業。府県単位では強化・育成が難しいアスリート向け練習会を開催	今後、より多くのアスリートに参加してもらえよう参加者の拡大に取り組む。	参加者数（人）	4	10	2/8予定	-	スポーツ振興課	
		障害者スポーツ協会と連携した、競技人口拡大や競技団体の整備など	どこでも多様なスポーツができる環境を整備し、関係機関と連携しバラスポーツの競技力向上を推進。	パラリンピックタレント発掘事業（水泳）等を引き続き実施し、今後、より多くのアスリートに参加してもらえよう参加者の拡大に取り組む。	関連イベント参加者数（人）	4	10	2/8予定	-	スポーツ振興課	
		障害者スポーツ指導員養成講習会の開催【再掲】	公認障がい者スポーツ指導員の「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得に向けての講習会を開催	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	参加者数（人）	23	12	6	-	障害福祉課	
		障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の運営【再掲】	上記修了者に対して、障害者スポーツボランティア人材バンクに登録依頼 市町村等へスポーツボランティアを派遣	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	登録者数（人）	224	237	243(増減あり)	-	障害福祉課	
(5) アスリートとキッズ・ジュニアの交流を通じた競技力の向上	アスリートと子どもたちとの交流を通じた競技力の向上	プロスポーツとの連携事業（少年少女野球教室）	ウェスタン・リーグ公式観戦と出場選手（又は元プロ野球選手）による少年少女野球教室を開催 【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しむ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数（人）	314	145	474	-	スポーツ振興課	
		「まってる！花園」（ラグビー交流試合）の開催	「全国高校ラグビー大会」の開催時期にあわせて小・中学校を対象とする交流試合等の機会を設けることで、県内のラグビー競技力向上のための土台強化を図る	県内ラグビーの裾野拡大、競技力向上、にぎわい創出につながっており、ラグビー競技の普及・振興に寄与している。	参加者数（人）	900	840	840	事業開始から10年以上が経過し、一定の目的を達成したことか廃止。	-	スポーツ振興課

	【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6H24>	【担当課】
3 サポート体制の整備	(1) スポーツボランティア等の人材育成	スポーツを「支える」人材の育成・増加	スポーツボランティア登録制度の運用	スポーツボランティアの登録制度を運用し、奈良マラソンをはじめ、プロスポーツチーム（バンビヤス奈良）のホームゲーム、プロ野球のエスワン・リーグの公式戦、体験イベント、総合型地域スポーツクラブのスポーツ教室等、様々なイベントへ、ボランティアを仲介。	登録者数の多い奈良マラソンボランティア制度を活用するため、同制度と連携し、相互に情報発信する取組を開始。	ボランティア登録者数（人）	-	500名	510名	1,000名 もしくは国スポでの必要数	スポーツ振興課
	(2) 生涯スポーツ功労者等への表彰	地域のスポーツ振興に貢献したスポーツ関係者や団体の表彰	奈良県スポーツ特別功労賞【再掲】	オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会等において第三位までに入賞した者並びに同大会等において活躍するなどこれに準ずる業績があると認められる者（県民栄誉賞等特設の賞を受賞した者は除く）を知事が表彰	地域スポーツ振興貢献者へのサポートにつながっている。 R6年度は4名のアスリートに奈良県スポーツ特別功労賞を授与。	表彰件数（件）	-	-	4	-	スポーツ振興課
	(3) 様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開	様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会負担会	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会においてクラブチームの経営やスポーツイベントの企画運営、人材育成などスポーツマネジメントにかかわる研修会や研究を開催。	コーディネイト、マネジメント、指導者など人材の育成につながっている	研修会等開催回数（回）	3回	2回	3回	-	スポーツ振興課
	(4) アスリートのセカンドキャリア形成の支援	アスリートのセカンドキャリア形成を支援方策の検討	アスリート県内定着プログラム	アスリート採用企業の発掘調査、県ゆかりのアスリート県内企業就職コースの把握。R6年度より企業とアスリートの就職マッチングを本格的に実施。 【参考資料2-12】	県内企業の人手不足対策にも貢献。	アスリート面談件数 マッチング希望企業数	-	3件 9社	1件 10社	-	スポーツ振興課
4 観るスポーツ・楽しむスポーツの機会創出	(1) 観るスポーツの機会の創出	様々な媒体や機会を通じて積極的な発信	SNSや公共の場、様々な媒体を機会を通じて積極的な情報発信	プロスポーツチーム等の試合や県内スポーツイベント等についてSNSやパブリックビューイングなどを通じて観るスポーツの機会を創出	地域に対する観戦や地域の活性化に寄与。	SNS発信数（件）	-	15	35(増30)	-	スポーツ振興課
	(2) 無関心層等へのスポーツ促進	スポーツへ関わるきっかけづくりと後押し	運動のきっかけ創出事業【再掲】	運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発。アソックスとの連携事業において、集客施設において体力測定会を実施。 【参考資料2-7】	無関心層への働きかけにより、運動、スポーツに取組みきっかけづくりにつながった。	参加者数（人）	-	145	163	-	スポーツ振興課
	(3) 山間部での運動実施率の向上	楽しく運動してもらええる施策展開	身近な運動普及啓発事業【再掲】	山間部など地理的条件などで運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発。 【参考資料2-6】	普及体を動かす機会が少ない山間部の住民を対象に、元オリンピック日本代表選手を招いて運動教室を実施。運動することの大切さ、楽しさの再認識につながった。これを機に市町村で身近な運動を推進する取り組みを実施してもらええるように働きかけていく。	-	909	676	-	-	スポーツ振興課
5 健全性・安全性の確保	(1) スポーツ団体のガバナンス・コンプライアンスの強化	ガバナンス・コンプライアンスの強化	指導者育成強化事業（県スポーツ協会補助）	県内各スポーツ団体に研修を実施するなど、ガバナンスコード策定を促進	組織の透明性・公平性・信頼性の確保に寄与している。	スポーツ指導者登録数（人）	2,608	2,987	3,318	4,000	スポーツ振興課
		総合型地域スポーツクラブのガバナンス強化	クラブアドバイザーによる指導・助言	クラブアドバイザーによる助言等を寄与したガバナンス強化	今後も適正な組織運営につながるようクラブアドバイザーを通じた支援を行う。	クラブアドバイザーの鑑回数（回）	クラブ62回 市町村5回	クラブ7回 市町村0回	クラブ46回 市町村3回	-	スポーツ振興課
	(2) スポーツインテグリティの推進	アンチドーピング教育・啓発事業やハラスメントや暴力行為の根絶に向けた啓発や相談対応体制の構築	指導者育成強化事業（県スポーツ協会補助）【再掲】	県スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を構築。R6年度より奈良県スポーツイノベーション推進本部を設置。	スポーツ指導者登録数（人）	2,608	2,987	3,318	4,000	スポーツ振興課

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6実績>	【担当課】
------	---------	-------	--------	------------	--------	------	------	------	--------	-------

III スポーツに親しめる環境づくり（活動の場をつくる）

1 施設・環境の整備

(1) 拠点的なスポーツ・健康づくり施設の整備	スポーツ・健康づくりの拠点整備	まほろば健康パークの機能強化の検討	すべての人が楽しく利用できる公園やこどもの主体的な遊びを通して子育て・子育て支援に資する公園	まほろば健康パークインクルーシブ機能検討委員会を5回（R5:1回、R6:4回）開催し、R7.3月に基本計画を策定予定。	-	-	-	-	-	公園企画課	
		明日香庭球場整備（コート整備やトイレ改修など）	国スポ開催を見据えた芝の張替えや、トイレなどの環境整備	国スポ開催及びその先を見据えて計画的に整備を進めていく。	明日香庭球場整備事業費（千円）	35,048	52,050	42,323	-	スポーツ振興課	
		スポーツ施設の防災的機能の強化	備原公園整備、明日香庭球場改修	防災機能を備えた施設整備	備原公園及び新アリーナ整備等においては防災機能を備えた施設整備を行い、地域防災力の強化につなげる。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課
	国スポ後を見据えた「スポーツ施設」の整備	備原公園再整備基本構想の策定	国スポ・全スポ大会後を見据え、県のスポーツ振興拠点となるよう、備原公園再整備基本構想を策定	基本構想を基に、R7年度は基本計画を策定していく予定。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
	(2) 民間活力の積極的な活用を検討・推進	民間活力の積極的な活用を検討・推進	まほろば健康パークの管理・運営	まほろば健康パークの管理・運営等に対し積極的に民間活力の導入を推進	年間利用者数	年間利用者数（人）	338,875	344,491	集計中	330,000	公園企画課
			ネーミングライツを活用した備原公園整備（さとやくスタジアム、ジェイテクトアリーナ奈良）	ネーミングライツによる命名権料を活用し、観戦する方やプレーする選手の快適性や安全性、利便性を更に向上させ、施設の魅力を高める	備原公園整備も踏まえながら、今後もネーミングライツをして頂けるよう、民間へ働きかけをしていく必要がある。	ネーミングライツ件数（件）	2	2	2	-	スポーツ振興課
(3) 既存スポーツ施設のファシリテスマネジメントの推進	既存施設の機能向上、長寿命化の促進	県内施設の有効活用	老朽化した施設の計画的な改修・修繕・耐震化	今後の備原公園整備等において、老朽化した施設の長寿命化を図り県内施設を有効活用する。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
		ファシリテスマネジメントによる持続可能な施設運営、利用促進	健民運動場の整備	昭和41年から46年に、スポーツ施設が不足している現状を鑑み、県内市町村に運動場を整備。現在、県内31市町村37カ所に設置	各市町村の現状に応じた柔軟な運用を検討	-	-	-	-	-	スポーツ振興課
(4) 身近な公共施設等の整備・活用	身近な公共施設等の整備・活用	小・中学校、高校体育館施設の一部開放	身近な地域で誰もが気軽にスポーツに取り組める場づくり	R5年度県立学校施設開放事業では、33校で施設開放を行った。 地域に開放することにより、運動会への副出や交流の機会となっている。	県立学校体育館施設開放日数（日）	-	165	169	169	（見込み）	体育健康課
		県立学校グラウンド芝生化（天然芝2高校、3支援学校、人工芝2高校）	身近な地域で誰もが気軽にスポーツに取り組める場づくり	芝生化グラウンド開放日数（日）	-	-	45	47	47	（見込み）	体育健康課
	〇奈良県サッカー協会へのフットボールセンター用地の貸与 〇ナイトラン（備原公園陸上競技場無料）	公共施設を有効活用しながら、幅広い年代の人が身近にスポーツに親しめることに寄与。	ナイトラン参加者数（人）	18,782	19,952	22,000	（見込み）	-	-	スポーツ振興課	
観光分野と連携	自然や歴史を活かしたウォーキングやサイクリング等の周遊型観光の推進	県内の資源を活かしたスポーツイベントの開催やスポーツツーリズム推進に一層取り組む	トレイルランニングレース「KoboTrail」の開催や奥大和地域を舞台とするサイクルイベントの開催を支援。奥大和地域への若年層などの新たな顧客層の開拓や、地域の高付加価値化により、「道」沿線市町村の振興につながっている。 「ロゲイニング in 飛鳥-奈良マラソン×飛鳥ハーフマラソン」を飛鳥地域で開催。歴史の特性を活かした奈良の魅力発信に寄与。	-	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
(5) スポーツ施設のユニバーサルデザイン化や環境配慮型施設整備の推進	ユニバーサルデザイン化、環境にも配慮した施設整備、改修等の推進、防災機能の強化	備原公園整備、明日香庭球場改修	年齢、性別、障害の有無にかかわらず、だれもが利用しやすいスポーツ施設となるよう、段差の解消、スロープの設置、多目的トイレへの改修や、AED（自動体外式除細動器）を設置するなど、スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を促進	今後、備原公園リニューアル整備等において、ユニバーサルデザイン化や環境配慮型施設整備を推進。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
(6) だれもが気軽にスポーツにふれることができる環境づくり	身近なオープンスペースの有効活用	小・中学校、高校体育館施設の一部開放【再掲】	身近な地域で誰もが気軽にスポーツに取り組める場づくり	R5年度県立学校施設開放事業では、33校で施設開放を行った。 【再掲】	県立学校体育館施設開放日数（日）	-	165	169	169	（見込み）	体育健康課

2 情報発信

(1) スポーツイベントや施設情報等に関する情報発信力の強化	県内外へのスポーツ情報発信力の強化	情報発信力強化	県HPやSNS（Instagram・YouTube）を活用し、スポーツ情報発信を促進	SNS（Instagram・YouTube）を活用し、情報発信力を強化。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課
(2) デジタル技術を活かしたスポーツDXの推進	先進的な通信技術を活かしたスポーツ・健康づくりの機会創出	オンラインフィットネス、体操動画	オンラインやVRを用いたスポーツ・健康づくりの機会創出	R6年度において具体的な取り組みはできなかった。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課
		ニューノーマル社会にも対応したスポーツ施設へのDX導入検討	奈良スーパーアプリ	備原公園における施設予約サービスに奈良スーパーアプリを導入し、オンライン施設予約やキャッシュレス支払いを開始	8月予約分からアプリによる受付を開始し、徐々に定着。来年度は明日香庭球場にも実装予定。今後も普及に取り組み。	-	-	-	-	-
(3) 観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信	観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信	自然や歴史を活かしたウォーキングやサイクリング等のスポーツツーリズムに関する情報発信	スポーツツーリズムやサイクリング、ウォーキング等周遊型観光	奈良マラソンやKobo Trailなどを活用した、宿泊を伴うスポーツイベントを実施。今後も新たな滞在型観光メニューを検討し、スポーツツーリズムを推進。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課

【施策】	【取組の方向】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R4>	<R5>	<R6>	<R6増設>	【担当課】		
3 地域交流の促進	(1) プロスポーツチーム等様々な主体と連携した地域との交流の機会づくり	地域を舞台にしたプロスポーツチームの活動、地域との交流	プロ・トップリーグ等の試合や大会の誘致	バンビシヤ奈良や奈良クラブ、飛鳥FCなどのプロスポーツの試合や大会誘致	地域に対する愛着や地域の活性化に寄与。	県内ホームゲーム数	45	49	51	60	スポーツ振興課	
		トップアスリートとのふれあいを通してスポーツの魅力を業しむ機会の創出	子どもたちをプロスポーツ試合等へ観戦招待【再掲】 トップアスリートとの交流イベントの開催【再掲】	ウエスタン・リーグ公式観戦と出場選手（又は元プロ野球選手）による少年少女野球教室を開催【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しむ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数（人）	314	178	474	-	スポーツ振興課	
	(2) スポーツキャンプやスポーツ合宿等の誘致	スポーツを通じた地域における交流	奥大和スポーツのメッカづくり事業	奥大和の特色を活かしたスポーツのメッカ事業実行委員会を支援、将来的なスポーツ合宿の需要を喚起することを目的とし、地元プロサッカークラブや著名な指導者による強化クリニックを実施。	プロサッカークラブの選手や著名な指導者による強化クリニックを奥大和地域内で開催し、県外や村内から参加いただくことで、スポーツを通じた地域における交流の促進につながっている。	強化クリニック参加人数（人）	-	-	-	45	奥大和地域活力推進課	
		スポーツ施設への合宿の誘致	スイムピア奈良や明日香庭球場のスポーツ合宿誘致	今後はコミッションにおいても合宿誘致に取り組み、スポーツを通じた地域交流をひろげる。	-	-	-	-	-	-	スポーツ振興課 公園企画課	
(3) スポーツを通じた友好交流の促進	スポーツによる国際的な友好交流の継続（キャンプ地誘致や交流試合、交流イベントの開催など）	青少年国際交流事業	次世代を担う青少年同士のスポーツを通じた交流を実施	R4年度は水泳、令和5年度はバドミントンの選手団を構成し、シंगाポールに派遣。	派遣者数（人）	17	13	-	一定の目的を達成したことから事業廃止	-	スポーツ振興課	
4 地域経済の活性化	(1) 自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進	奈良県の自然、歴史等の特性を活かした奈良らしいスポーツイベント開催・発信	KoboTrailの開催（南郡地域でのトレイルラン）	弘法大師の道を活用したトレイルランニングレース	スポーツを通して奥大和地域への新たな顧客層を開拓するとともに、「道」沿線市町村の文化的価値の向上につながっている。	参加者数（人）	149	179	166	200	奥大和地域活力推進課	
	(2) 奈良県の魅力資源を活かしたスポーツツーリズムの推進	県内周遊型観光につながるスポーツツーリズムの展開・コンテンツの検討	ヒルクライム大台ヶ原since2001	大台ヶ原ドライブウェイを活用したヒルクライムレース	奥大和地域を舞台とするサイクルイベントの開催を継続的に支援。地域の魅力発信や、交流人口の増加促進による地域活性化につながっている。	参加者数（人）	-	386	467	-	-	スポーツ振興課
			奥大和アウトドア・スポーツツーリズム推進事業	奥大和地域でアウトドアアクティビティなどのスポーツツーリズムを推進するため、トレッキングやサイクリングルートを描載したルートマップの作成、メディアトリップを実施してのプロモーション、ガイド育成講習等を行う。	有名アウトドアブランドと連携して実施することで、アウトドア愛好家の奥大和への誘客につながっている。	-	-	-	-	-	-	奥大和地域活力推進課
			自転車周遊環境の充実	サイクリングマップの作成及び配布、広域的な周遊観光サイクリングルートの環境改善等。	サイクリングマップの作成、配布によるサイクリングルートの周知やサイクリングルートの走行環境改善により、自転車利用環境の充実につながっている。	-	-	-	-	-	-	-
	(3) スポーツコミッション設立に向けた産官学等の連携方策の検討	スポーツコミッション設立に向けた検討	スポーツコミッション設立に向けた検討	スポーツ振興と地域活性化に向けた取り組みをコーディネートするスポーツコミッション設立に向けて様々な分野との連携も視野に検討	R6年度よりコミッション設立に向けた調査を実施。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
5 国スポ・全スポ開催を契機としたスポーツ施策の展開	(1) 国スポ・全スポによるレガシー創出に向けた取組検討	レガシー創出に向けた取組の検討・推進	開催基本構想の策定（準備委員会が実施）	奈良県が目指す大会の姿を明らかにし、大会の開催準備及び運営に関わるすべての者が連携協力して取り組むための指針を示す。	R7年8月を目途に策定することを決定。現在、検討作業中。	-	-	-	-	-	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会運営室	
	(2) 国スポ・全スポ開催を契機とした環境整備	スポーツ拠点施設整備	スポーツ拠点施設整備	国スポ・全スポ大会後を見据えて、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、多くの県民が様々なスポーツに取り組める環境を充実させるという方針に基づき、スポーツ拠点施設を整備する。	R6年12月、新アリーナ、武道施設と既存施設の改修に求められる現伊・機庫等の取壊などをまとめた整備基本構想を策定した。また、新アリーナは新大新駅西側に建設する方針を決定した。これらを踏まえ、整備基本計画を策定する等、スポーツ拠点施設整備を進めていく。	-	-	-	-	-	スポーツ振興課	
		両大会に向けた施設整備の推進と持続的なスポーツの振興につながる取組の促進	奈良県国民スポーツ大会等開催準備事業	国スポ・全スポ競技会場地市町村の、大会後を見据えた施設整備の補助を行い、多くの県民が様々なスポーツに親しめる環境の充実ははかる。	R7年度新規事業	-	-	-	-	-	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会運営室	